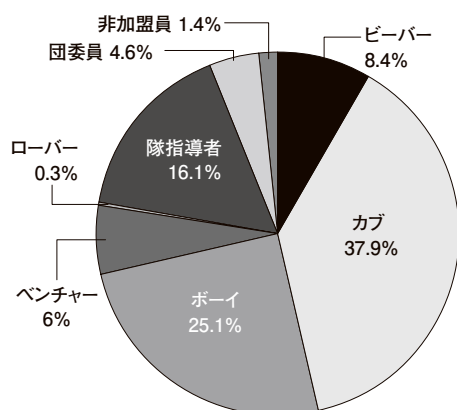


# 2009年度（平成21年度）傷害共済事故分析結果にみる 傷病の傾向

2009年度傷害共済制度における事故発生状況の報告を基に、次のとおり傷病を分析しました。今後の活動における事故を未然に防ぐ一助にしてください。

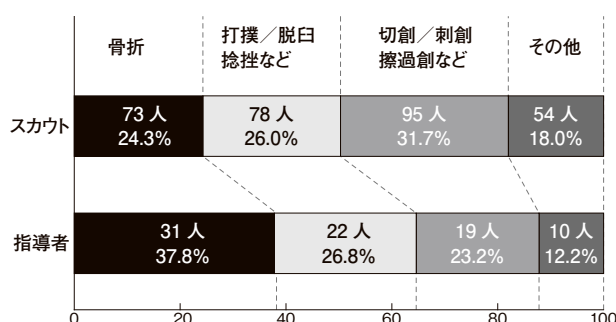
## ○ 傷病者が所属していた部門 (n=367)

カブ・ボーイ・ベンチャー年代である10歳代が全体の半数近くを占め、事故多発年代となっていた。指導者が事故全体に占める割合は過去5年間20～24%台で推移しており、一向に減少傾向が見えてこない。



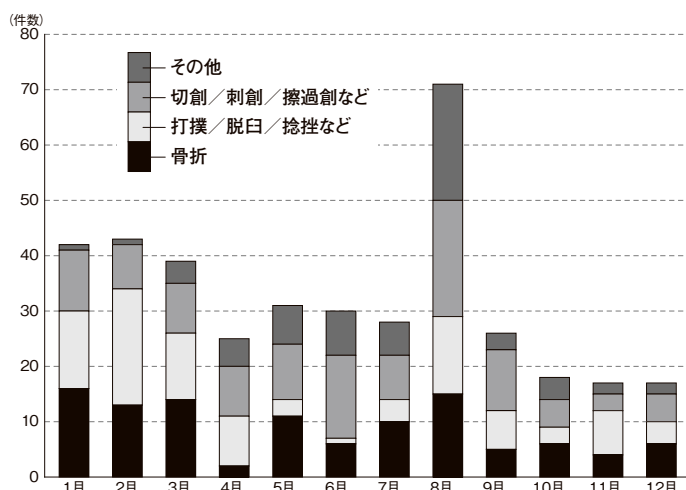
## ○ スカウト・指導者別 傷病内容の内訳 (のべ件数 n=382 非加盟員を除く)

各年代とも骨折が多かった。特に指導者層では骨折は傷病全体の3～4割にのぼり、さらに運動器系外傷だけで見ると、その65%を占めていた。



## ○ 発生月別傷病者数と傷病の内容 (のべ件数 n=387)

- 事故の発生月では8月が最も多く年間発生数の20%近くにのぼっていた。これはキャンプなどの実施に伴い活動日数が多いことも影響していると考えられる。8月は骨折が多発していたが切創も際立って多く、1年間の切創件数の1/4を占めていた。キャンプ等の行事月でもあり、刃物を使う機会が増えることが関連していると考えられる。
- 1月から3月にかけても事故が多発しており、この3か月間で1年の事故件数の1/3を占めていた。事故時の集会内容はスキー、スケート、スノーボードなど冬期特有の活動が多かった。
- 骨折は1月から3月にかけて多く、1年間の骨折件数の約40%がこの3か月間に集中して発生していた。さらに捻挫や脱臼などの64.8%、肉離れの66.6%が同じようにこの3か月間に発生しており目立つのが特徴である。



以上のように、夏期および冬期のけがには特徴があります。特有の活動に伴って起こる事故は予測しやすいことから、予防のための安全対策を徹底すれば、必ず効果はみられるはずですが、また、指導者自らが事故を起こさないようにより一層注意して行動してください。

安全委員会